

須坂学園構想基本方針（案）地域説明会 会議録

- 1 日 時：2025 年 7 月 10 日（木）19～21 時
- 2 対 象：第 11 ブロック
- 3 会 場：仁礼小学校 視聴覚室
- 4 参加者：37 人
- 5 市教育委員会：
勝山教育長、中村教育次長、若林学校教育課長、安川係長、
後藤主任指導主事、北村指導主事、西原指導主事

◆参加者 ◇市教委

（１）施設分離型と施設一体型について

◆参加者 A

- ・仁礼小と高甫小が合併し、施設分離型で第一学園を作るという話ですが、施設分離型で上級生と下級生の繋がりが実現できるのかというところに少し疑問に思っています。施設が近所であれば、それは実現できるのかもしれないですけども、相当な距離があります。その距離の中で繋がっているところが実現できるのかどうか一つ疑問になりました。
- ・須坂市の財源事情が厳しいのは分かっていますが、思い切って学校を 1 つ作るというのも 1 つの考えだと思う。

◇市教委

- ・施設分離型の上級生と下級生の繋がりについて
 - 本来、一体型であれば、同じ校舎の中で日頃から交流ができる。分離型だと日頃の交流ができてにくい。その辺どのようにされているのか、先進地の奈良県の学校を視察しました。奈良県の施設分離型の学校も、1 年から 4 年生と 5 年生から中学 3 年の 9 年生までに分けている。学校間の距離は約 1.5 キロ。その学校間の交流については、スクールバスが無く、徒歩での行き来となるため、なかなかその 2 校間の交流はうまくできていない課題があるとお聞きしている。
 - 須坂市で考えている第一学園は、スクールバスを検討している。学校間の距離は約 2.2 キロだが、スクールバスを使えば学校間の交流は可能と考えている。ただし、一体型と同じようにできるかというところ、交流ができてにくいところはある。
 - 5 年生から 9 年生はしっかり交流ができる。奈良の分離型の学校では 1 年生から 4 年生の校舎では、4 年生が非常に成長する姿を見せているとおききしているため、須坂市も期待している。
- ・一体型の学校を整備してはとの提案について
 - 須坂市としても、それができれば一番よいと考えている。ただし、児童生徒数の減少が非常に

厳しい状況にある。例えば、東中学校の敷地の中に小学校の校舎、体育館、グラウンドを整備するとなると、今の敷地では厳しい。今須坂市が持っている用地では一体型の学校は整備できない。

○新たに用地を確保して、そこに新しい学校を作るとなると、時間がかかりすぎて、新しい学びを保障していく、今の課題を解消していくことが遅れてしまうと考え、今の学校施設を活用する中で、分離型の義務教育学校を提案している。

◆参加者 B

・この地域は施設分離型の学校ですずっとやっていくということなのか。将来的な見通しを教えてください。

◇市教委

・今抱えている課題をできるだけ早く解消するということで、5、6年先を見通して、まず施設分離型でスタートをしたいという提案。5、6年先に東中学校の敷地内に全部揃えるということは、厳しいが、その先の児童生徒数の減少状況によっては、いずれは一つの敷地の中に揃えるという可能性もある。

(2) 基本方針案の作成過程、分離型の義務教育学校への疑問

◆参加者 C

・この基本方針案の内容はどのように決定してきたのか。非常に唐突に出てきたような思いがある。誰と誰がどこで発言して、この案に決まってきたのか説明いただきたい。

・小中一貫型学校と義務教育学校は、これまでの教育と法律的に何か変わるのか。

◇市教委

・基本方針案の決定の過程について

○これからの新しい教育を実現していくためにはどうしたらいいのかということ、色々なパターンを組み合わせ考えてきた。新しい校舎を建てる場合やそれが間に合わない場合は既存校舎を活用する、活用するにあたってもどの校舎を使ったらいいのか、子どもたちはどう通ったらいいか等ということをシミュレーションしながら事務局で一旦考えた。事務局で考えたその案を策定委員会等の場で、学校の現場の先生や、大学の先生に見ていただき、意見をお聞きしてきた。その中では、現場の先生から、分離型よりも一体型の方がよいのではないかという意見もあった。ただ、喫緊の課題への対応として、急がなければいけない中で5、6年先は厳しいと考え、施設分離型の義務教育学校を提案している。

・義務教育学校等の教育課程の特例について

○義務教育学校並びに中学校併設型小中学校の場合、平成27年文科省の告示の第55号で、学校段階間の接続を見通した計画的かつ継続的な教育を実施するための教育課程の特例が認められている。

○これは、学習指導要領を基本としながらも、総合的な学習の時間に特別な教科を設けたり、例

えば、先ほど説明した「ふるさと須坂を題材とした学習」や異学年集団での追求をしたりすることが可能になっている。また、そういう時間を工面して、小学校1年生から英語の学習に振り分けるといったことが可能になる。

○従来の学習指導要領は踏襲するが、それ以外に色々な工夫ができるというところが、義務教育学校並びに小中一貫型学校の特色となっている。

◆参加者 D

- ・分離型の学園をそこまで急いで整備しなければいけない理由がわからない。
- ・現在の学校の授業の様子を見る機会があり、小学校1年生17名の中で、勉強についていけているのかと心配になる子どもの姿を見た。担任1人に対して子ども17人でも大丈夫かなと思う現実がある。それで、30人のクラスがいいというところが私には理解できない。もっと1人1人を大切にする授業をしてもらいたい。
- ・10年前は地域の学校、保育園ということで、豊丘保育園が最後に新しくできた。最初、豊丘保育園を造るときに、小学校と一緒に保育園を整備したらどうかという意見もであったが、しかし地域には必要だという意見があって保育園が建てられた。そういうところも考えていただきたい。
- ・不登校の子どもが学校1校分位いる現状の中で、もっとその子たちのための教育を考えていただきたい。

◇市教委

- ・分離型の義務教育学校の提案理由

○子どもの数が減るということは、それに合わせて先生の数も減って、指導も苦しくなる。先生の数を確認するために、クラスの数を確認する必要がある。今回、義務教育学校にすることで、ある程度の規模にしてクラスの数を増やし、先生の数を増やしたいと考えています。

○今、高甫小学校は全ての学年で1学級となっている。同じ学年の中で先生同士が相談しようと思っても、同じ学年の先生がいない状況。先生がもし休みたいと思っても、他の学年の先生に何とか調整してもらって、自分のクラスを見てもらわなければいけないという現状がある。

○東中学校も今、1、2年生が1クラス。3年生が2クラス。今、東中学校は教科の先生が足りなくて、技術の先生を市費で配置している。ただし、市では、県と比べて、十分な給料が支払えない状況がある。学校規模を確保するということは、教員を確保しながら指導力を保障するというところをご理解いただきたい。

○仮に、この基本方針案が決まっても、そこからカリキュラム開発委員会などを設置して具体的な検討が始まる。不登校の対策や特別支援教育、施設の改修等についても検討が必要であり、開校までに6年は必要と考えている。したがって、基本方針を先延ばしすることで、子どもたちが、少人数の中で生活していく状況が長く続くことになります。

(3) 学校から：学校の現状と小規模校における教育の課題、教員確保の重要性について

◆参加者 J

- ・仁礼小学校はすべての学年が単級。小規模の良さとして、顔が見える、みんなが全員で支え合え

る良さがあります。

- ・仮に学園構想で単級が解消された場合の利点について考えました。
- ・普段から感じていることですが、まずクラス替えができるようになる。小さい頃から同じ人間関係の中で育っていくと、いい面もある。お互いのことをよく知っているのも、言わなくても通じることもあるが、ただそこで1度関係性が上手くいかなかったとき、子どもにとっては酷な場面もある。もちろん教員も全力で支えるが、そこで1回リセットをかけたいなと思っても、クラス替えができないということになると、子どもたち苦しい場面もあるので、固定化した人間関係の解消、新しい関わり作りができるところ、単級が解消できることがよいと思います。
- ・多様な考え、多様な価値観に触れるということで、学校は家庭での学習と違って、集団で、大人数で学習するからこそ、多様な考えに触れ、それを受け入れ、また学びを深めていく場です。より多くの友との活動の中に、多様な価値観に触れる場面があると感じています。
現在、仁礼小学校でも縦割り活動を入れたりして、できるだけ色々な学年の子どもたちと関わりながら、多様な価値観に触れて学びを深めていく場面を設定しているけれども、そういったことがさらに広がっていく良さはあります。
- ・教職員の方から考えると、まず学年会を持つことができる。全部1人で考えて1人でやらなければいけない単級というのは、思っている以上に大変なこと。自分でこのやり方でいいのかなと思えたときに、同じ学年で相談できる相手がいないというのは、先生方は苦しい部分があります。交流が同じ学年間でできることで、日常的な教材研究とか研修が積める、ここは非常に大きいと思う。
- ・教職員の校務分掌は学校がいくら小規模でも、他の学校と同じように決まっている。大きいから多くて、小さいが少ないというわけではないので、1人が持っている校務分掌は大変多いです。それを回しながら、日々の授業をやっている先生方を見ると、2クラスあったらと思うことはよくあります。
単級が解消されると、そこに先生方のゆとりが生まれる。そうすると、教材研究や研修の時間も取れ、子どもと向き合う時間、1人1人の子どもと向き合う時間を取れる。
- ・学園構想で学区が広がることで、仁礼小としての良さはどうなるのかということも気になります。しかし、フィールドが大きくなることはいいもある。ふるさと学習で、仁礼から高甫までフィールドが広がることで、地域の中にある色々な良さがを学ぶことができるようになる。
- ・義務教育学校になるということで、私もそこが一番どうなのかと思っている。しかし、私の前任の学校は、一つの施設に小学校と中学校がある学校でした。教育課程はそれぞれ別ですが、一つの学校の中でやることで、子どもの顔を教職員がよく知るということできた。そうすると、中1ギャップも少なく、子どもたちの雰囲気を実日常的につかめるということがありました。
- ・施設分離型の肝は、職員が行ったり来たりしながら、子どもを繋ぐ、教育課程を繋いでいく、教職員の繋がりが大切になると感じています。職員が繋ぎながら、子どもたちが緩やかに分離型でも9年間を過ごしていけるそんな形をイメージしています。

◆参加者 K

- ・3月まで小さな学校にいたので、そこで感じた課題等をお話しします。

- ・長野市の七二会小学校は、豊丘小学校よりも小さくて、昨年度の全校児童は25名でした。今年度は22名。6年生5名卒業して、1年生が2名入ってきた。七二会小は、1、2年生、3、4年生、5、6年生の複式学級です。
- ・課題に感じたことは、今までの話にも出ているように、多様な価値観に触れるというところが、人数が少ないと弱くなる。
- ・子どもたちの良さを生かしてやりたいが、人数が少ないと少ないだけ、良い考えだとかリーダーになってくれる場面が減ってしまう。
- ・小さな学校では人間関係が固定化される。小さな学校では、子どもがうまく言えない場面でも皆が分かってくれるようないい面もあるが、将来社会に出ていくと、様々な人間関係の中で、色々な経験を積んで欲しいという思いがあります。
- ・授業についても、1、2年生で1人しか先生がいないので、授業の準備を2学年分して、1年生と2年生の授業を同時に行っている。私も担任の先生が休んだときに、算数やりましたが大変でした。
- ・七二会小学校は音楽専科を配置できない規模で、合同音楽会もどうするかという状況があった。たまたま学級担任で音楽専門の教員が配置されたため何とか校内の工夫で対応できた。教員の人数が少ないと専科教員がいない、教科が揃わないという課題があります。
- ・七二会は、中学校が令和5年度で閉校し、七二会小学校の卒業生は、裾花中学校、川中島中学校、信州新町中学校から選択して進学することになった。5名の6年生は1名が川中島中、3名が信州新町中、1名は私立の文化学園を選び、裾花中はゼロ。須坂市は全部の学校について考えているので、その提案いいなと思います。
- ・もちろん小規模校の良さもあった。全校が家族のようで、学年でも仲が良い。また1人1人に活躍の場もある。また、計画から実行までが早く、小回りが利く。

◆参加者Ⅰ

- ・私は大規模な学校も小規模の学校も両方を経験していますが、どちらにも良さがあります。
- ・東中学校では三心自立といって、子どもが卒業するときには自立して、社会に出てほしいと願っています。この自立をどうやって育てるかっていうことを教員は日々一生懸命考えています。
- ・私が大規模校にいたときには、子どもたち自身が大勢のいろんな考えを持った子どもたちの中で、自分がどうすべきかを学ぶことがあると感じていました。
- ・逆に、私が小規模の学校にいた時に気をつけて見ていたことは、人数少ないと、教師と子どもの距離がすごく近くなります。そうすると教員は子どもがかわいいので、ついつい手を出してしまう。何でも手を出してしまう。それがいけないということではないですが、教員として子どもの自立を促すときに、子どもに考えさせなければいけないこともある。その距離感がすごく難しかったです。
- ・今、東中学校は3年生2クラス、2年生と1年生は1クラスです。来年もし、全学年1クラスになった場合は、今でさえ1人、市から専門の先生をお願いしています。それが、さらに足りなくなってしまう。中学校の場合には、受験があるので、そういった部分で専門に教えている先生に子どもたちが教えてもらえれば幸せだなと思います。専門に教えている先生は、どうやって子ど

もに楽しく教えたらいいかとか、どういうふうにしたら力がつくのかっていうことを何十年もいるので、専門の先生でないとそういうところが少し弱くなってしまいます。ですので、クラス数は、子どもたちにしっかりと授業をするという意味でも深刻な問題です。

- ・先ほども校務分掌の話がありました。子どもと向き合う時間の確保がとても大事です。日々の業務で忙しくて、子どもと本当に向き合えているのか。子どもの細かな悩みや、つまずきに気づけているのかっていうようなことを私達は大事にしています。今の学校で、できていないということではなくて、校務分掌が忙しくなってきて、1人の教師の負担が増えてくると、それをせざるを得ない状況がどうしてもあります。そうすると、少しゆとりがなくなってきてしまうことが、クラスの数が減るということに関わって心配に思っています。

(4) 地域との関りとまちづくりにおける学校の存在価値について

◆参加者 E

- ・仁礼から小学校がなくなるということが仁礼にとっては大きな問題。仁礼小学校と東中学の間辺りは住宅がいっぱい集中している。小学校がなくなったときにこれがどう変わっていくのか。小学校があるからここへ来たっていう人もいると思う。保育園もあるし小学校もあるし、この地域で子育てができる、地域の環境がいいからということで。そういう問題を見なければいけない。子どもの教育だけ考えればいいっていう問題ではない。
- ・教育委員会は、この地域の学校のあり方と、地域の発展をどう考えているのか。仁礼の衰退にならないように、どう考えているかお聞かせいただきたい。

◇市教委

- ・地域の学校のあり方と地域の発展について

○地域の中で学校が果たしてきた役割は本当に大きいと感じています。その学校がなくなってしまうことに対して、地域の方の不安は大きいと思います。ただ、子どもたちの学びをまず考えたときに、どうしたらいいのかということで今回提案させていただきました。

○今まで学校が果たしてきた役割を、どこかが担わなければいけないと考えています。それは教育委員会だけではなくて、他の部署も含めて、地域をどうしたらいいのかという議論を進めていきたいと思っています。

○例えば、社会教育を地域のまちづくりの中にどう活かしていくのかというのは、全国の先進地でやっています。学校が再編でなくなってしまった地域のまちづくりは全国どこでも課題になっています。全国の事例を見ると、社会教育でまちづくりしていこうというところがあります。須坂もそういった全国の事例を参考にしながら、まちづくり、地域の発展を考えていきます。

◆参加者 E

- ・学校がなくなることによって不動産価値も変わると聞いた。近くに小学校があるから中学校があるからということで不動産の値段を決めている。そうすると、これから小学校がなくなって、ひょっとしたら保育園もなくなるかもしれない。地域が衰退してしまうのが寂しいというのが実感です。

◆参加者 F

- ・私は3年前にここ住み始めて、条件として小学校、中学校の位置関係をしっかり考えて、越してきました。
- ・でも地域の方たちがこれが一番いいと今動いているので、もう住んだからには運命共同体だと思って、付いていくつもりです。引っ越すつもりもないです。ただその中で、後から来た人間が取り残されるような地域であって欲しくない。ここは魅力的な土地です。私も旦那もここゆかりの地ではないですが、ここに住む価値が高いと思って住み始めて、子どもいます。
- ・ふるさと学習で地域を大事にした学習がある中で、外から来る人のことを考えているのかということが気がかりで、この9年間通して学習する中で、途中から須坂に来たお子さんが、最終的には個人テーマ研究まですると言われた中で、途中から来た子が遅れることなく、この地域のことを考えて一緒に学習していけるのか。その集団の中に入っていくという選択が取れるか不安です。
- ・私の同級生で長野市から須坂市に住みたいと言っている方がいて、これからの動きがわからない中で、本当にこれから須坂に住むことを選んでいいのかって迷っている仲間もいます。そういう仲間たちに須坂に是非って言いたいんです。逆に、不安だから出ていくことを考え始めている人もいるのが現状です。みんな不安と葛藤しながら、今ある教育の中でベストなものは何だろうって選んで、住むところ、これからの人生を選んで地域に住んでいます。ぜひそれは知っていただけた上で、その地域と学校という関わりを考えていただけると、住む場所、生涯を選ぶというところに、人の人生が関わってくると思うので、外から来る人間もいる、出ていく選択をしなければならぬ人もいるかもしれないということがあるので、このふるさと学習や色々なカリキュラムを組んでいただけるといいなと思いました。

◇市教委

- ・後からこの地域に住まれる方が学校の中で、困ってしまうということがないように学校や教育委員会も含めて配慮をしていきます。

(5) 義務教育学校への期待と今後の分離型のあり方について

◆参加者 G

- ・私は学校が一緒になり、賑やかな学校で、大勢集まって知恵を出し合いながら生活しているという学校ができるってということで、非常に有難いと思っています。
- ・高甫小学校と仁礼小学校が一緒になるまでには数年経ちますので、その時には、高甫小学校と仁礼小学校の人数は少ないです。それがとても残念な部分です。
- ・2学級規模や、21人から30人の規模がいいと自分も思うし、そういった中で切磋琢磨して、子どもたちが成長する。ただ、高甫にできる1年生から4年生までの校舎がひょっとしたら、1学級ずつかと思うと、ちょっと残念です。それが、自分が一番危惧するところです。ですので、高甫小学校と仁礼小学校の括りがいいかどうかとか、また考えてもらえたら有難いです。
- ・それと、1年生から4年生だけで4学級、特別支援学級があるとしたら5、6学級になるかもしれないが、その規模でいったら100人ちょっとの学校。だとしたら一層のこと、一体型としてあ

る程度規模を持った学校を作った方が、今は分離型でいいかもしれないけれど、何年後かの子どもたちにとっては、一体型の校舎の方がいいかなと思います。

◇市教委

- ・先の人数を見たときは、一体型ということも考えていかなければいけない。今後の人数を見て判断していきます。

(6) 小中一貫教育のビジョン、12 年間を見通した一貫教育について

◆参加者 H

- ・一貫教育でどのような大人になって欲しいのか、ビジョンを教えて欲しいです。

◇市教委

- ・自分らしく未来を拓いていける、自立した大人になっていただきたいと考えています。

◆参加者 I

- ・保育園と小学校の連携がいいとの説明がありました。12 年間の一貫的な教育方針だとわかりました。ただ、保育園の話が学園構想の中に一つも出てない。これを説明しないと 12 年間を一貫してやっていこうということがよく理解できない。学校がなくなった場合、今の保育園との連携はどうなりますか。

◇市教委

- ・保育園と小学校の連携は今もやっていますが、引き続き 12 年間で学びというのを見ていきたいと思っています。
- ・現在、市内に学校が隣にいない保育園はいくつもあります。そういった保育園でも学校との連携をやっています。日常の交流というのは確かに隣同士の方がやりやすいです。しかし、連携は隣同士でなくても、離れた園でもやっていますし、これからもやっていきます。

閉会